

# 地域包括支援センター取組報告

## 概要版（西圏域：コロナ禍における活動編）

---

社会福祉法人 阪南市社会福祉協議会  
阪南市西鳥取・下荘地域包括支援センター  
令和3年3月

# 総合相談～コロナ禍における傾向～<sup>1</sup>

年間 延べ **4,492**件 

令和元年 4,226件

- ・ 1回目の緊急事態宣言後は相談自粛により激減するも、その後は徐々に増加

## 相談事例から見たコロナ禍の傾向（全体的な傾向）

- ・ 軽度のサービス利用が多い⇒フレイル（心身の虚弱）が全体的に進んでいる印象
- ・ コロナ前より、地域活動に参加していた方や地域の活動者（福祉委員や民生委員）とつながっていた方は、比較的健康を維持
- ・ 元々から孤立傾向にあった方は、状態が重篤化してから相談につながる傾向が多々みられた

## コロナ禍における今後の対策

- ・ “地域とのつながりの大切さ”、“誰かとつながっていることで守られる健康”をテーマに、相談支援体制の取り組みを推進

# ケアプラン作成～コロナ禍における傾向<sup>2</sup>

年間 延べ **4,078**件



令和元年 3,976件

- ・総合相談と同じく申請控えもあったが、徐々に申請が増加



## コロナ禍の傾向

- 年度当初は申請利用が減少
- 年度後半には福祉用具や住宅改修の利用申請が増加
- コロナ自粛がきっかけの状態悪化を防ぐため、サービスだけでなく、家族支援、地域とのつながりをつくることを意識した支援を心がける

# 権利擁護事業～コロナ禍における傾向～

## 権利擁護事業

相談実績 延べ **183**件  
(総合相談内)

相談内容内訳	件数
権利擁護	13
成年後見等	21
虐待関係	110
消費者被害等	5
財産・経済問題	34
合計	183

### コロナ禍の傾向

- 虐待関係⇒約2.5倍増加
  - ・コロナ自粛の影響大
  - ・地域の見守りや関係機関へ気づきの促進が必要
  - ・地域包括支援センターや行政等の虐待窓口の周知
- 財産関係等は減少
  - ・不急な相談との認識

# ケアマネ支援～コロナ禍における傾向～

## 包括的・継続的ケアマネジメント事業

ケアマネジャーへの支援・助言・相談

延べ **573**件

ケアマネジャー連絡会（事務局）

計 **4**回

延べ **60**名出席

### コロナ禍の活動

- 連絡会や研修会が中止、書面開催となる中、オンラインにて集まりを開催
- 感染対策を踏まえた支援方法、つながる方法を検討しながら、以前より課題としてあがっていた業務量の軽減、効率化も含めて、取り組みを推進

オンラインにて  
地域のケアマネ同士に  
よる話しあい



# 地域ケア会議～コロナ禍における傾向～

## 地域ケア会議推進事業

個別支えあい会議

校区・地区支えあい会議

エリア会議

計 **8**回

計 **4**回

計 **16**回

- ・ 認知症高齢者の見守り体制
- ・ 要介護者と住民の支えあい活動
- ・ 生活困窮者支援
- ・ 在宅看取りの体制づくり

- ・ コロナ禍における地域の高齢者の状況

エリア会議全体会

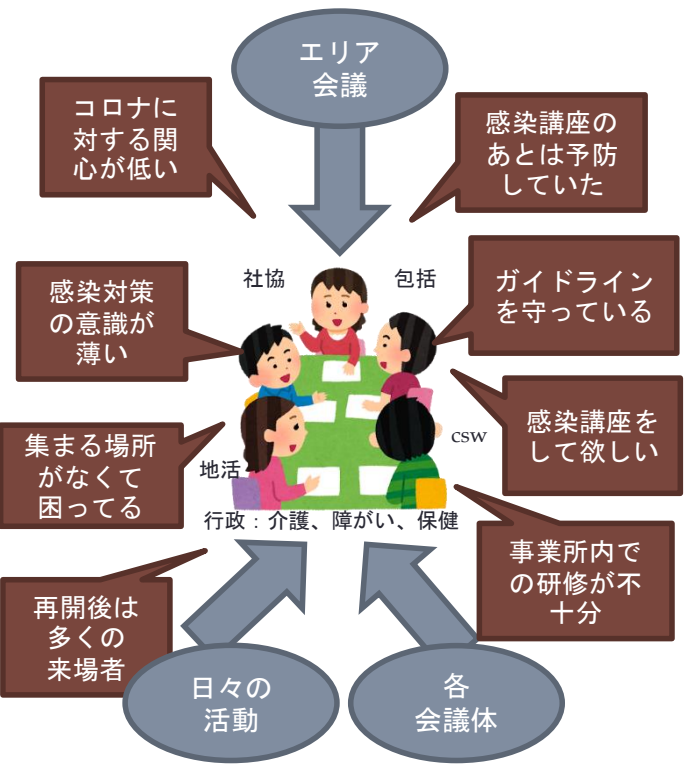
計 **3**回

### コロナ禍の活動

- コロナの影響により、地域活動が停滞
- 専門職も感染対策に迫られ、地域に出向きづらい状態
- 感染予防をテーマに、地域活動の応援をしようと専門職協働のチームが発足（次ページ）

# 地域ケア会議を活用した社会資源づくり ～コロナ禍の地域課題に、多機関協働で取り組む～

## エリア会議全体会



市全域で検討が必要な地域課題の共有  
課題解決に向けた社会資源づくり

## 地域福祉活動がトラインへの反映 感染対策チームの発足



多機関協働の感染対策チーム  
チラシの作成  
住民への周知啓発

## 地域との協働

実施場所	人数
舞校区高齢者食事会(1)	23人
舞校区高齢者食事会(2)	18人
ボランティアコーディネーター会議	19人
尾崎カフェ	21人
波太カフェ	35人
サロン・カフェ連絡会(1)	8人
サロン・カフェ連絡会(2)	13人
舞東茶話会	6人
草の根ネットワーク	15人
いずみが丘サロン	10人



社協から

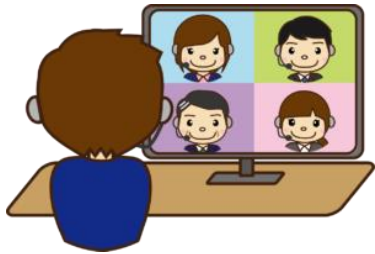


市民福祉から

地域へのコーディネート

地域活動の後方支援、周知啓発、多機関協働

はなていネット：「阪南市医療と介護の多職種連携会議」との協働



## コロナ禍の活動

- ・ 事業所同士のコロナ禍における情報交換の場として、オンライン会議を用いておこなう
- ・ コロナによって事業所が閉鎖した場合の事業所間協力の体制づくり
- ・ 市と協働による感染対策物品の配布
- ・ 集まりづらいことを想定した広報誌等の有効活用をおこない、在宅医療等の情報発信をおこなっていく



# 認知症支援～コロナ禍における傾向～<sup>8</sup>

## 認知症施策の推進（認知症地域支援推進員）

### 認知症地域支援推進員活動状況

個別支援（相談等）延べ 416件 団体支援 延べ 133件

認知症の当事者、家族支援  
認知症カフェ等の活動支援



### 認知症初期集中支援チーム

さつき阪南

対象者 計 6名  
チーム員会議 延べ 21回

### コロナ禍の活動

- 屋外での活動や朗読劇による周知啓発など、コロナ禍でもできる活動を推進
- オンラインによる多職種連携の事例報告

### コロナ禍の活動

- 認知所をきっかけに社会から孤立している状態にある人が増加
- サービスにつなぐだけでなく、つながりが途切れないような支援を意識

# 介護予防事業～コロナ禍における傾向～

## いきいき百歳体操

- ・ 22グループ／30グループ目標
- ・ コロナが影響し、新規立ち上げは減少
- ・ 活動中止と再開後の体力測定実施  
筋力低下がわかる⇒チラシで予防促進

## コロナ禍の活動

- コロナ禍でも体操教室は実働
- 体操前後でフレイル予防の大切さを伝え、地域住民の健康を守る活動を推進

